

教学半也

令和8年9月28日

No.10

全ての読者対象

第3回指導主事と共につくる授業相談会 令和8年8月19日（諏訪・上伊那合同） 主体的・対話的で深い学び（探究的な学び）の 視点から授業を考える

第3回指導主事と共につくる授業相談会を開催しました。今回は、「主体的・対話的で深い学び（探究的な学び）」のテーマのもと、模擬授業を行い、その後、各教科等に分かれてグループ懇談を行い、日頃の取り組みや悩みについて語り合いました。



前半の模擬授業では、中学校理科の光の屈折で起こる不思議な現象から、追究していく場面を扱いました。参加者の皆さんの、屈折による現象から疑問をもち、光の進み方に着目して、お互いの考えを伝えながら追究する様子は、まさに、「主体的・対話的で深い学び」につながる姿でした。

今回の研修では、「主体的・対話的で深い学び」について考えることができた。実際に授業を受けてみて、どんな授業が「主体的・対話的で深い学び」なのかを体感することで、今後の授業に取り入れるイメージがついた。

（参加者の感想より）

模擬授業を受け、生徒への問い方や、生徒の意見を拾って学習課題に結び付けるといった流れを学ぶことができた。前時とのつながりを考えながら、生徒の、「これはどうだろう」「これはどうして」といった興味や疑問を引き出せるような提示を行っていきたい。

グループ懇談では、2学期の授業の流れや具体的な工夫について学び、疑問を解決することができ、充実した時間となった。

（参加者の感想より）

後半の懇談では、資料の比較などから、子どもから問いが生まれやすくする支援や、個に応じた学びのカリキュラムの作成、学習指導要領の見方など、2学期に向けて具体的な話をすることができました。



日々の忙しさに追われ、自分の中でたまっていた不安や疑問を共有でき、うれしく思った。他の先生方のお話を聞くと、共感できることが多くあり安心した。本日学び得たことをさっそく明日から実践していきたい。

（参加者の感想より）

「主体的・対話的で深い学び」とは？

	授業改善に向けた「学習者」の視点	授業改善に向けた「授業者」の視点
深い学び	- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる - 知識を融通し、関連付けてより深く理解する - 情報を精査して考えを形成する - 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	- 資質・能力を重点化する（つきたい力を明確にする） - 単元や各授業の目標を把握する - ねらいを達成した子供の姿を具体化する - 教材の価値を把握する - 単元及び各時間の計画を立てる - 目標の達成状況を評価する

各教科等の見方・考え方を働かせる

主体的・対話的で深い学びに向かっていくためには、子どもたちが、興味・関心や追究の見通しをもつこと、対話を通して自分の考えが広がること、各教科の見方・考え方を働かせることなどが重要です。そのような子どもたちの姿が見られるよう、日々の授業改善に臨んでいきたいですね。



【お知らせ】第4回授業づくり研修会について

日時・会場

- ・10月26日（月）：伊那合庁
- ・10月29日（木）：諏訪合庁



申し込み方法

1. 9月18日付で各学校に送付されたメールをご確認ください。
2. 校長先生、教頭先生にご相談、校長先生にご決済をいただいた上で、右記の二次元コードよりお申し込みください。



キラリ★Pick Up

図画工作

教師と一緒に楽しむことは、創造的なこと

『わくわく！スーパーランドセル（第3学年：工作）』

伊那市立東春近小学校 3年東組

想像する世界をランドセルの中に表す題材の一場面です。

授業の冒頭、「先生もランドセル作ったからちょっと待っててね」と、北原先生は教室の外へ出ました。そして、改めて教室に入ってきた瞬間の子供たちの様子が次の写真です。



子供たちは北原先生が作ったランドセルの中を見たくて仕方がありません。ランドセルが開いた時には「うわぁ！」と歓声が上がりました。北原先生はすかさず「何で作ってあると思う？これは何？」と材料について問いかけました。また、「焼きそばだったら、みんなは何で作る？」とも問いかけました。「僕なら毛糸！」「私ならこっちの糸かな」と話が膨らみます。そんなやりとりの中で、ある児童が発した「早く作りたい！」という声を受け、北原先生は「よし、今日も工夫して作っていかうか！」と声をかけました。ここまでの時間は5分ほど。

その後、子供たちの手は止まりません。大きさの違う容器を比べながら「こっちな」と選んだり、トレイを重ねて切ることで同じ大きさの形をたくさん作ったりと、夢中になって表現していききました。北原先生はその様子を捉え、「すごいね！」「上手！」「開くとどうなるの？」と、認めたり、共感したり、一緒になってその工夫を楽しんだりする声かけをしていました。

北原先生は、「表したいことに合わせて材料を選んで工夫して表す」といった子供への願いを込めて授業づくりをされていました。その上で、紹介したような「楽しい」「わくわく」「早くやりたい」といった子供の気持ちを目いっぱい引き出す支援をしています。

ねらいをもって授業づくりすることはもちろんですが、その意味や価値を先生も一緒に楽しむことはとても創造的なことだと感じます。図画工作の時間を共に楽しもうとする北原先生と子供たちの創造活動がキラリと輝き続けていた授業でした。